

発行日 令和6年11月
発行 市教研音楽部会

理事挨拶

千葉県教育研究会音楽部会 理事

「音楽こそウェルビーイングの原点です」8月に開催された千葉県音楽科担当指導主事等研修会の中で文部科学省初等中等教育局視学官 志民一成先生がおっしゃった言葉が忘れられません。ウェルビーイング (Well-being) とは、心・体・社会的なつながりが持続的に良好な状態を意味します。「幸せ」と訳される一時的・瞬間的な、精神的面での幸せ「Happiness」を包み込むような、一段大きな概念です。この言葉を聞いて、これまで音楽とかかわり、それを子供たちに伝え、時には共に味わうことを生業としてきた幸せをあらためてかみしめました。音楽は、無条件にその人の人生に寄り添い支えてくれます。年齢、障害、人種、民族などにかかわらず、平等に楽しむことができます。音楽を通して子供たち一人一人のウェルビーイングのために大きな役割を果たして下さっているのが音楽科の先生方です。なんて素晴らしいお仕事でしょう！

さて、予測困難な社会を生きる子供たちには、感性を豊かに働かせながら、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることが求められています。市教研音楽部会の研究主題「音楽の『楽しさ』、その本質に迫る授業づくり」は、この点において、子供たちの今後の人生に大きく寄与するものと期待されます。主体的に音楽に関わることを通して、音楽の楽しさ、おもしろさ、すばらしさを存分に味わう経験の積み重ねが、豊かな人生のための一助となるに違いないと考えるからです。

令和9年には、千葉市で3つの研究大会が同時開催されます。大会の概要については、現在、関係者で協議を進めています。決まりましたら会員の皆様にお示しいたします。20年後、30年後、50年後の子供たちの「豊かに音楽と関わる」姿を目指し、市教研音楽部会がひとつになって研究の歩を進めて参りましょう。

本年度の研究推進について

1 市教研音楽部会 研究主題

音楽の「楽しさ」、その本質に迫る授業づくり
～ 9年間の構築的な学びに向けてのモデルプランづくり ～

2 研究の視点

【視点1】【共通事項】を支えにした、9年間の学びの連続性を考えた授業づくり

- ① 学び方の共有
- ② 既習を生かして学びを深める授業づくり

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ① 音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て
- ② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

【視点3】評価の在り方

3 R6年度の取組について

音楽科において身に付けたい力を明確にして共有するため、具体的に、9年間の学びの連続性の中で、何をいつまでにどのように身に付けておくよいかを明確にしたい。そのため、それぞれの領域ごとにモデルプランの重点を設定し、身に付けるべき資質・能力のつながりが段階的に見えるような授業研究を行い、検証する。

< R6年度 モデルプランの重点 >

- 歌唱 楽曲にふさわしい表現を求めて歌唱する力（根拠をもって歌い試しながら、納得できる音楽表現を目指す過程を重視した指導）
- 音楽づくり・創作 音色を手掛かりにして、思いや意図をもって音楽をつくる力⇄表したい思いや意図に合った音色になるように音楽表現を（創意）工夫する力
- 鑑賞 自己のイメージや経験と結び付けて、曲や演奏のよさを見いだしながら聴く力

《小学校Aブロック》 市内小学校

題材名「せいかつの中にある音を楽しもう」（2年生）

教材名 音楽づくり「なきごえをつかってあそぼう」歌唱「虫のこえ」



役になりきったり場面の様子を考えたりして、楽しみながら様々な表現をすることができました。

参加者から

- ・カルタを用いて場面の様子に合った鳴き声で表現する活動では、声の工夫をするなど根拠をもって表現することにつながっていた。
- ・表現したことと思考がつながるように、子供の発言を整理し、共有や振り返りをするとよい。

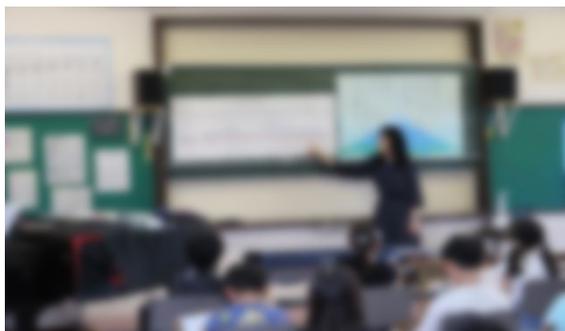
助言者から

- ・声の出し方にも焦点を当てて活動することで「音色」への気付きにつながるのではないかと。
- ・表現遊びや音さがしなど、担任の強みを生かした横断的な活動の積み重ねが本時につながっていた。
- ・お面やジェスチャーなど様々なアプローチでどの児童も抵抗なく表現できる、個別最適な手立てがとられていた。

《小学校Bブロック》 市内小学校

題材名「曲の山を感じながら歌おう」（3年生）

教材名 歌唱「ふじ山」



体を動かす常時活動は、旋律等の特徴や曲想をつかんだり、思いをもって表現したりするのに効果的でした。

参加者から

- ・楽譜の表記や掲示物の工夫。提示する画像を精選することで曲の魅力を感じ取ることに繋がった。
- ・「日本一の山」という歌詞を意識して歌い方を考えられていた。

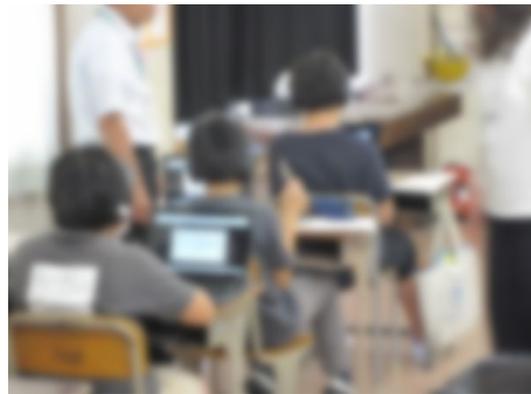
助言者から

- ・児童が思いを表現することができるように、教師が歌唱等の技能向上のための指導をする必要がある。本時は手立てを教えることで、歌声が大きく変化した。
- ・歌詞や音の上がり下がり、曲の山にふさわしい歌い方を思い出しながら、思いをもって学習に取り組んでいた。

《小学校Cブロック》 市内小学校

題材名「曲想の変化を楽しもう」(6年生)

教材名 表現(歌唱)「思い出のメロディー」 鑑賞「ハンガリー舞曲 第5番」



ギガタブを用いた鑑賞では、個々のペースで聴きたい場所を繰り返し鑑賞することができました。

参加者から

- ・自分の言葉を書き足すことができるサポートカードが効果的であった。国語など他教科でも活用したい。
- ・焦点を当てた強弱、速度について子供たちはよく聴き取っていた。聴く場面や全体共有する場면을絞って、より深く掘り下げることで子供たちの言葉を引き出すことにつながるだろう。

助言者から

- ・題材にある「変化」の捉え方について、「曲の中にある変化」「表現者の違いによる変化」を混同しないことが大事である。
- ・聴き取る内容を絞り、個人で集中して聴く時間と、教室内に音楽が溢れている時間のそれぞれのよさを活用できるとよい。
- ・子供たちの心が動いた瞬間をキャッチして、どのように心が動いたのかを発問の方法を工夫しながら引き出していくのが教師の役割である。

8月 実技研修報告

今年度の実技研修は、昭和音楽大学の黒川和伸先生をお招きして「合唱指導法」の研修を行いました。「授業で使える合唱指導法」ということで、授業の進め方や発声方法について黒川先生の楽しいお話と共に、終始和やかな雰囲気で行いました。

特に、声が響いているときの体の状態について、図で分かりやすく説明していただきました。人間の持っている共鳴管(声道)は、声帯から唇の先までのことをいい、この形状によって音に含まれる周波数が異なるため音の明るさや深さなど様々な音色を作り出すことができます。胸の位置を高く、顎を引くことで声道が長くなり、響きのある深い音色の声が出ることを私たちも改めて実感しました。



【図で分かりやすく説明していただきました】



発行日 令和 7 年 3 月
発行 市 教 研 音 楽 部 会

理事挨拶

千葉市教育研究会音楽部会 理事

感染拡大防止のために音楽科の様々な取組が制限された日々が遠い昔のように感じられます。どうしたら音や音楽を味わい楽しむ気持ちが深められるのか、これまで培ってきた知識や技能が継続できるのか、初めて直面する難題を前に、私たちは市教研というつながりの中で知恵を出し合い、ピンチをチャンスに変えてきました。ICTの活用をはじめとして、皆の力で手に入れた工夫や学びの在り様は現在も継続され、日々の授業に生かされています。

今年度も、ブロックごとの例会は、積極的に授業を引き受けてくださった先生方や研修部を中心とした役員の支援で大きな成果を得ることができました。また、教育センターの市教研連携講座は、経験豊かな講師の方々から具体的で大きなヒントをいただきました。実技研修も、即実践につながる研修を行うことができました。どれをとってみても、市教研という組織だからこそ実現できた有意義な取組であったと思われまます。

さて、現行の学習指導要領では、音楽科で育成すべき資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能力」と規定しています。これは生涯にわたって音楽に親しみ豊かな人生を送るための土台となるものです。私たち教師も、教科書だけでなく広く社会に目を向け、様々な音や音楽を自ら体感してみませんか。聴くだけでなく時には表現者として、さらには絵画や映画を観て涙したりスポーツ観戦して熱くなったりと感情を揺さぶられるような経験をしてみてはいかがでしょうか。教師自身の感性を豊かにすることは、目の前の児童生徒が音楽を享受することと両輪になって進むはずです。広い視野と豊かな感性をもつ先生は子供にとって魅力的であるに違いありません。音楽部会の先生方の感性がさらに磨かれ、素敵に輝くことを心から願っています。

今年度の成果と課題（研修部より）

研究主題 音楽の「楽しさ」、その本質に迫る授業づくり
～9年間の構築的な学びに向けてのモデルプランづくり～

本年度は、研究主題である、音楽の「楽しさ」の本質に迫る授業づくりに向けた取組に重点を置き、研究を推進しました。学習のねらいに対して、どのような姿が、音楽の「楽しさ」の本質を追求している姿なのか、具体的に示し、授業を通して検証を行いました。目指す姿を具体的にすることは、ねらいに迫る手立ての工夫や評価の見取り等に有効でした。今後は、児童生徒の気付きや変容を捉えて価値付け、全体に共有していくことで、さらに楽しさを追求する姿を目指したいと考えています。

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善【視点2】のため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実についても意識して取組を行いました。学習形態、教材、教具、ワークシート等の工夫やICTの活用等により、児童生徒それぞれが思いや意図をもち、その思いや意図を伝え合って活動する姿が見られました。さらに、伝え合ったことを自分たちの音楽表現や音楽の聴き方に生かし、深めていく姿を目指していきたいと考えています。

次年度は、3年間の研究のまとめとして、音楽の楽しさを味わい、音楽のよさや面白さなどを見いだして聴き深める姿、表現の深まりを追求する姿を目指し、研究主題に迫っていききたいと考えています。

10月・11月例会報告

10月22日と11月19日に、A～Cの3ブロック、6つの小・中学校にて授業が展開されました。小中合同で参観後、活発な協議が行われました。それぞれのブロックの様子を紹介します。

《Aブロック：音楽づくり・創作》

10月：市内小学校（4年生）

題材名 「いろいろな音のひびきを楽しもう」

教材名 音楽づくり「打楽器の音楽」 器楽「茶色の小びん」

鑑賞「管弦楽組曲第2番」から「ポロネーズ」



表したい思いや意図にあった音色になるように演奏方法を工夫することができました。

参加者から

- ・ドラムサークルを常時活動として行うことで、様々な楽器の鳴らし方や音色で楽器を演奏する土台をつくることができた。
- ・ギガタブを活用することで、見やすく検討しやすいというメリットがあった。

助言者から

- ・カードを音で表す活動では、試行錯誤することで、色々な鳴らし方などの音色の工夫が生かされていた。
- ・音楽を「自由に」つくっていく時には、ある程度の範囲を設定する必要がある。
- ・この教材で学習した音色の工夫を次の「茶色の小びん」の器楽の学習に生かしていきたい。
- ・本時の活動につながる常時活動は有効であった。子供たちはセッションがしたいのだと思う。子供たちの思いを大切に学習を進めていきたい。

11月：市内中学校（1年生）

題材名 「音色を工夫して風景を表す音楽をつくろう」

教材名 創作「Let's create!」



楽器の数や種類、マレットなどが充実していて、イメージに合う音色を選択・変更できる環境になっていました。

参加者から

- ・小学校で追求した音色について発展させるために、表現をもっと具体的にイメージさせると創作がしやすくなるだろう。
- ・創作の観点を提示し、聴く視点と一致させると、グループ内で活発な意見交換がなされるだろう。

助言者から

- ・演奏の始まりなど友達との息づかいで合わせられるように小学校から積み重ねたい。
- ・「ジョーズ」の鑑賞からイメージや音色を学習してから創作につなげることも有効。
- ・既習事項に戻る・生かすことで主体的な学びになっていくことを意識するとよい。

《Bブロック：歌唱》

10月：市内小学校（6年生）

題材名「曲想の変化を楽しもう」

教材名 歌唱「思い出のメロディー」



考えた歌い方をもとにグループで歌い試していくことで、歌声に変容が見られました。

参加者から

- ・ワークシートの構成が簡潔で、どのように工夫したいかを考えたり書き進めたりすることができていた。
- ・曲全体ではなく、部分的に重点をおいて完成させられるようにすると、曲想の変化に注目できるだろう。

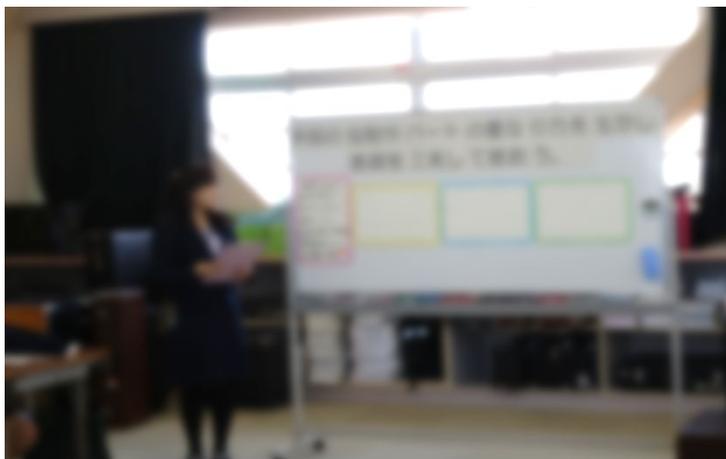
助言者から

- ・全体で共有した時に、教師が具体的に問いかけることで歌声に変容が見られ、児童にも実感が伴っていた。
- ・歌詞を大切にするために拡大歌詞に書き込みがあると、既習が生かされ、意見が活発になるだろう。
- ・グループごとに録音して聴く活動が効果的であった。全体の録音もあると変容がわかるだろう。

11月：市内中学校（2年生）

題材名「パートの役割を理解して合唱しよう」

教材名 歌唱「翼をください」



ワークシートの構成や、少人数グループでの練習は、役割を意識できる有効な手立てになりました。

参加者から

- ・パートの役割について理解し、ワークシートに記入している生徒が多かった。
- ・グループで練習するうちに、ずれていることに気づいたり、次第に声が出るようになっていたりしていた。

助言者から

- ・パートの役割を意識させるというねらいや手立てが明確になっている内容であった。
- ・ICTも効果的に活用されており、場の設定もよかった。
- ・技能面の課題を解決するためには、一緒に歌ったり助言を与えたりすることが必要である。

《Cブロック》

10月：市内小学校（3年生）

題材名 「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」

教材名 表現（歌唱）「とどけようこのゆめを」「ふじ山」
鑑賞「メヌエット」



くらげチャートの活用は、子供たちが知覚と感受を区別するために有効な手立てになりました。

参加者から

- ・ギガタブによって、個々のペースで聴きたい場所を繰り返し鑑賞することができた。
- ・グループ交流があり、全体の活発な発言につながっていた。

助言者から

- ・子供が発言した時にその場面を再生したことや、リズムと速度との違いについて体を使った表現により確認することで理解が深まった。
- ・ヘッドフォンもいいが、スピーカーで一齐に鑑賞している時の子供たちの表情が良かった。音環境を整え、高音質の音源で鑑賞の学習ができるようにしていきたい。

11月：市内中学校（2年生）

題材名 「曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう」

教材名 鑑賞「交響曲第5番 ハ短調」第1楽章



ワークシートに選択肢を入れるなどの工夫やサポートシートの活用により、どの生徒も取り組むことができました。

参加者から

- ・聴き取ったこと、感じ取ったことに分かっているワークシートがねらいに迫るために効果的であった。
- ・拡大楽譜を画面に提示して動機の確認をしていたのがわかりやすかった。

助言者から

- ・ベートーヴェンの人生を知った上で聴かせるなど、歴史や楽曲背景と併せて鑑賞することも大切。
- ・思考ツールの活用による効果を期待するが、プリントを埋めることが目的になると表面的なまとまりになってしまう。
- ・「動機はどれくらいあるのか?」「なぜ沢山あるのか?」など課題提示の仕方の工夫をすることで、生徒たちが動機に注目しようとする意識がより高まるだろう。